



CHAPTER 26

バックアップと復元の実行

Cisco Prime Collaboration Manager では、次のページ ポリシーを使用しています。

- 1 日以上経過したすべてのセッション統計とエンドポイント統計データはページされます。
- 14 日以上経過したすべてのセッション情報とトラブルシューティング情報は、1 時間に 1 回ページされます。
- 14 日以上経過したクリア済みアラームおよびイベントのみ、1 時間に 1 回ページされます。アラームがページされると、すべての関連イベントもページされます。アクティブなイベントとアラームはページされません。
- 14 日以上経過しており、ステータスが完了済み、失敗、またはキャンセルのジョブは、1 時間に 1 回ページされます。
- エンドポイント利用率レポートとトラブルシューティング レポートは削除されません。

バックアップと復元サービスを使用して、データベース、コンフィギュレーション ファイル、ログ ファイルをリモート ロケーションとローカル ディスクのいずれかにバックアップできます。バックアップ サービスでバックアップされるのは次のファイルです。

フォルダ名	データのタイプ
emms database	データベース用です。
emsam/conf	設定ファイル。
emsam/export	トラブルシューティングとエンドポイント利用率レポート。
emsam/logs and tomcat/logs	Cisco Prime CM アプリケーションと Tomcat ログ ファイル。
jre/lib/security	キーストア ファイル。

データのバックアップ前にリポジトリを作成する必要があります。デフォルトでは、バックアップ サービスは *.tar.gpg ファイルを設定されたリポジトリに作成します。バックアップされたファイルは圧縮形式になっています。CD-ROM、ディスク、ftp、sftp、tftp にあるリポジトリを使用できます。

続く項では、リポジトリ、バックアップ、回復用 CLI コマンドの使用方法について詳しく説明します。

- 「FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成」 (P.26-2)
- 「データのバックアップ」 (P.26-2)
- 「リポジトリ データの一覧表示」 (P.26-3)
- 「バックアップ履歴の確認」 (P.26-3)
- 「データの復元」 (P.26-3)

FTP、SFTP、または TFTP サーバへのリポジトリの作成

ステップ 1 インストール中に作成したアカウントを使用して Cisco Prime CM サーバにログインします。デフォルト設定は、*admin* です。

ステップ 2 次のコマンドを入力してディスクにリポジトリを作成します。

```
admin# config t
admin(config)# repository RepositoryName
admin(config-Repository)# url ftp://ftpserver/directory
admin(config-Repository)# user UserName password {plain | hash} Password
admin(config-Repository)# exit
admin(config)# exit
```

それぞれの説明は次のとおりです。

- *RepositoryName* とは、ファイルをバックアップする場所を指します。この名前には最大 30 文字までの英数字を指定できます。
- *ftp://ftpserver/directory* とは、FTP サーバおよびサーバ上のディレクトリで、ここにファイルを転送します。FTP の代わりに SFTP または TFTP を使用することもできます。
- *UserName* および *{plain | hash} Password* とは、FTP、SFTP、または TFTP のユーザ名とパスワードです。*hash* は暗号化されたパスワードを指定し、*plain* は暗号化されていない、プレーンテキストパスワードを指します。

次に例を示します。

```
admin# config t
admin(config)# repository tmp
admin(config-Repository)# url ftp://ftp.cisco.com/incoming
admin(config-Repository)# user john password plain john!23
admin(config-Repository)# exit
admin(config)# exit
```

データのバックアップ

リポジトリを作成後、Cisco Prime CM サーバに *admin* としてログインし、次のコマンドを実行してデータをバックアップします。

```
admin# backup Backupfilename repository RepositoryName application emsam
```

それぞれの説明は次のとおりです。

- *Backupfilename* : バックアップ ファイルの名前。この名前には最大 100 文字までの英数字を指定できます。
- *RepositoryName* : ファイルをバックアップする場所。この名前には最大 30 文字までの英数字を指定できます。

バックアップが完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
% Creating backup with timestamped filename: Backupfilename-Timestamp.tar.gpg
```

バックアップ ファイルには、サフィックスとして末尾にタイムスタンプ (*YYMMDD-HHMM*) とファイル拡張子 *.tar.gpg* が付され、リポジトリに保存されます。

次に例を示します。

```
admin# backup cmbackup repository tmp application emsam
```

バックアップが完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
% Creating backup with timestamped filename: cmbackup-110218-0954.tar.gpg
```

リポジトリ データの一覧表示

リポジトリ内のデータを一覧表示するには、Cisco Prime CM サーバに *admin* としてログインし、次のコマンドを実行する必要があります。

```
admin# show repository RepositoryName
```

次に例を示します。

```
admin# show repository tmp
cmbackup-110218-0954.tar.gpg
admin#
```

バックアップ履歴の確認

バックアップ履歴を確認するには、Cisco Prime CM サーバに *admin* としてログインし、次のコマンドを実行する必要があります。

```
admin# show backup history
```

次に例を示します。

```
admin# show backup history
Fri Feb 18 09:54:39 UTC 2011: backup cmbackup-110218-0954.tar.gpg to repository
tmp: success
Fri Feb 18 18:29:48 UTC 2011: backup cmbackup-110218-1829.tar.gpg to repository
tmp: success
admin#
```

データの復元

データを復元するには、Cisco Prime CM サーバに *admin* としてログインし、次のコマンドを実行する必要があります。

```
admin# restore Backupfilename repository RepositoryName application emsam
```

ここで、*Backupfilename* は、サフィックスとして末尾にタイムスタンプ (YYMMDD-HHMM) とファイル拡張子 *.tar.gpg* が付された、バックアップ ファイルの名前です。

次に例を示します。

```
admin# restore cmbackup-110218-0954.tar.gpg repository tmp application emsam
```

